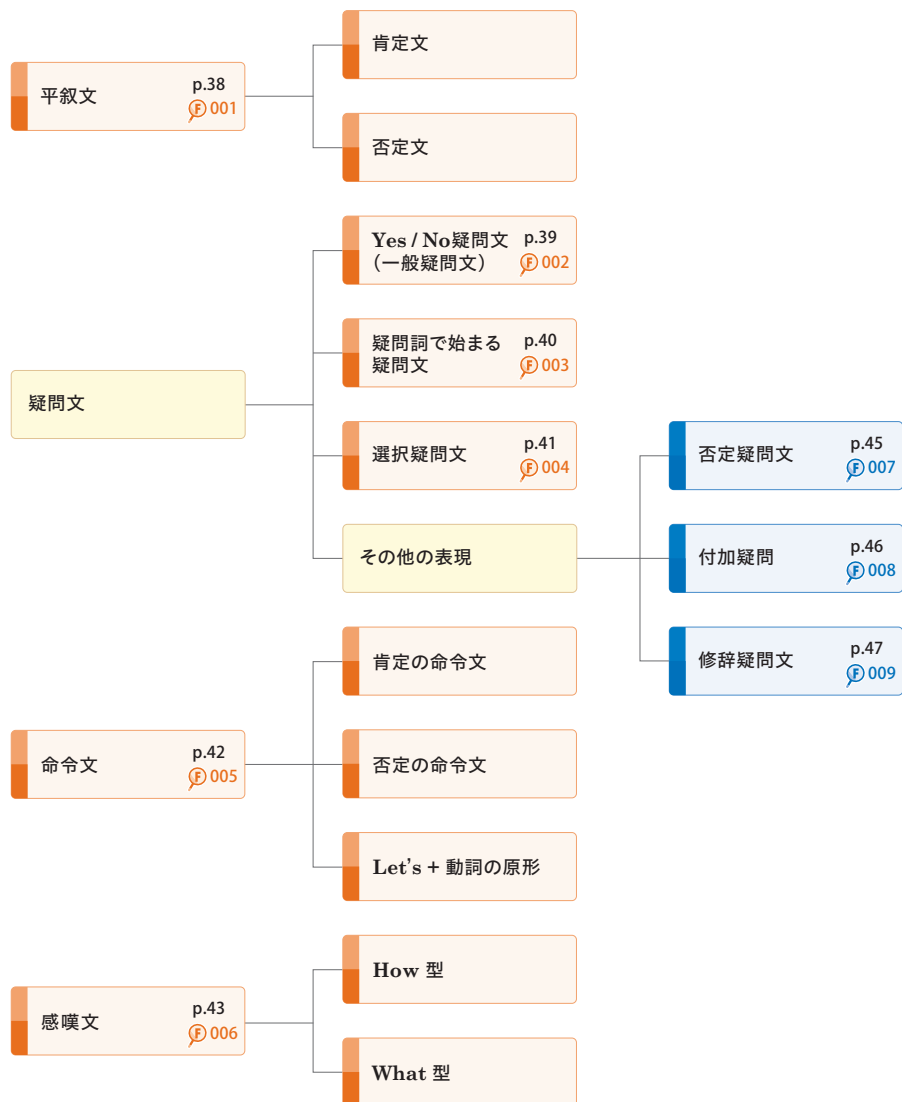


文の種類



日本語の疑問文、英語の疑問文

日本語の疑問文

「～です→ですか」で疑問文になる。

あなたは学生です。

あなたは学生ですか。

文末に別の言葉を加えることで意味が変わる。

英語の疑問文

youとareの順番が変わると疑問文になる。

You are a student.

Are you a student?

順番を変えることで意味が変わる。



日本語は文の最後に「か」などを加えて疑問文にしますが、英語ではどうですか。

英語は語順がとても重要な言語です。ですから、疑問文にするのにも語順がポイントになります。例えば You are ... の文では Are you ... のように、主語と動詞をひっくり返します。日本語では語順を変えるとどうなりますか。



日本語は語順を変えても伝わる意味に大きな違いはありません。例えば、「あなたは学生です。」も「学生です、あなたは。」もほぼ同じ意味に思えます。

そうですね。しかし、さっきも言ったとおり、英語では語順がとても重要で、それを変えるには一定のルールに従わなくてはなりません。You are a student.を×A student are you.や×A student you are.に変えることはできません。



そのルールを覚えることが大切なのですね。



平叙文

平叙文は、物事をありのまま述べる文で、〈主語(S)＋動詞(V)…〉の語順になる。文の終わりに**ピリオド**(.)を付ける。平叙文には「～です、～します」を表す**肯定文**と、「～ではありません、～しません」を表す**否定文**がある。

001

平叙文(肯定文と否定文)

- | | | | |
|----|------------------------------------|--------------|-----|
| 1. | a. I am a student. | 私は学生です。 | 001 |
| | b. I 'm not a student. | 私は学生ではありません。 | 002 |
| 2. | a. I play tennis. | 私はテニスをします。 | 003 |
| | b. I don't play tennis. | 私はテニスをしません。 | 004 |
| 3. | a. He can play the flute. | 彼はフルートが吹ける。 | 005 |
| | b. He can't play the flute. | 彼はフルートが吹けない。 | 006 |

be 動詞の否定文

1. **be 動詞の否定文**は、be 動詞の後に not を置き、**〈be 動詞+not〉**の語順になる。
- ▶ She is my sister. (彼女は私の姉[妹]です。)
- She is **not** my sister. (彼女は私の姉[妹]ではありません。)

一般動詞の否定文

2. 一般動詞の否定文は、動詞の前に〈do/does/did+not〉を置き、〈**do/does/did+not+動詞の原形**〉の語順になる(⇒p.656「doの活用」)。
- ▶ My father **plays** golf. (父はゴルフをします。)
- My father **doesn't play** golf. (父はゴルフをしません。)
- 原形

注意

助動詞のある否定文

3. 助動詞のある否定文は、助動詞の後に not を置き、〈助動詞+not+動詞の原形〉の語順になる。
- ▶ I will be at home tomorrow. (明日は家にいます。)
- I will not be at home tomorrow. (明日は家にはいません。)

参考

英作文のコツ

肯定文・否定文の変換

問題 母は今、留守です。

解答 My mother is not at home now./My mother is out now.

解説 「留守」を英語にしやすい日本語に変換することが必要。「母は今、家にはいない」あるいは「母は今、外にいる」と考える。

Focus

002

疑問文：Yes/No 疑問文(一般疑問文)

1. **“Is he a student?”** “Yes, he is.”/“No, he isn’t.” 007

「彼は学生ですか。」「はい、そうです。」「いいえ、違います。」

2. **“Do you play tennis?”** “Yes, I do.”/“No, I don’t.” 008

「あなたはテニスをしますか。」「はい、します。」「いいえ、しません。」

3. **“Can you swim?”** “Yes, I can.”/“No, I can’t.” 009

「あなたは泳げますか。」「はい、泳げます。」「いいえ、泳げません。」

Yes/No 疑問文(一般疑問文)

Yes か No で答えることのできる疑問文を **Yes/No 疑問文(一般疑問文)** という。be 動詞, Do/Does/Did, 助動詞を文頭に出して作る。文の終わりに**疑問符(?)**を付ける。

+ Plus

Yes/No 疑問文(一般疑問文)は、普通は上がり調子(↗)のイントネーションになる。

Is he a student?(↗) Do you play tennis?(↗) Can you swim?(↗)

be 動詞の場合

1. be 動詞を文頭に出し、**〈be 動詞+主語...?〉**の語順になる。

▶ **Chris is** a student. (クリスは学生です。)

→ **“Is Chris a student?”** “Yes, he is.”/“No, he isn’t.”

(「クリスは学生ですか。」「はい、そうです。」「いいえ、違います。」)

一般動詞の場合

2. Do/Does/Did を文頭に置き、**〈Do/Does/Did+主語+動詞の原形...?〉**の語順になる。動詞は必ず原形になる。

▶ **John plays** tennis. (ジョンはテニスをする。)

→ **“Does John play tennis?”** “Yes, he does.”/“No, he doesn’t.”

原形 (「ジョンはテニスをしますか。」「はい、します。」「いいえ、しません。」)

+ Plus

平叙文でも上がり調子で発音すれば疑問文になる。確認する場合が多い。

You did your homework?(↗) (宿題はやったよね。)



変わらなければ成長しない。成長しなければ、本当に生きていることにならない。ーゲイル・シーヒー

助動詞の場合

3. 助動詞を文頭に出し、〈助動詞＋主語＋動詞の原形...?〉の語順になる。

▶ Meg **can** play the piano. (メグはピアノが弾けます。)

→ “**Can** Meg play the piano?” “Yes, she can.”/“No, she can’t.”

(「メグはピアノが弾けますか。」「はい、弾けます。」「いいえ、弾けません。」)

Focus

003

疑問文：疑問詞で始まる疑問文

1. “**When** is your birthday?” “It’s April 25th.”

010

「誕生日はいつですか。」「4月25日です。」

2. “**What** did you buy?” “I bought a T-shirt.”

011

「あなたは何を買いましたか。」「私はTシャツを買いました。」

3. “**Where** can I buy a ticket?” “At the counter over there.”

「チケットはどこで買えますか。」「あちらのカウンターです。」

012

4. “**Who** plays the hero?” “Mike does.”

013

「誰が主役を演じるのですか。」「マイクです。」

疑問詞で始まる疑問文

「いつ」「どこで」「誰が」「何を」などの内容を尋ねるときは、when, where, who, what などの疑問詞(⇒ p.442)で始まる疑問文にする。答えるときはYes/Noではなく、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」などに対応する内容を答える。

+ Plus

普通は下がり調子のイントネーション(↘)になる。ただし、聞き直すときは上がり調子で言う。What did you say?(↗) (何とおっしゃいましたか。)

疑問詞が主語以外の場合

1. 2. 3. 尋ねたい事柄を疑問詞にして文頭に置き、その後はYes/No疑問文(一般疑問文)と同じ語順になる。〈疑問詞＋Yes/No疑問文(一般疑問文)...?〉の形。

I bought **a T-shirt**.

何を?

What did you buy?(↘) [Yes/No疑問文の語順]



疑問詞が主語の場合

4. 主語を疑問詞に置きかえて、〈疑問詞(S)＋動詞(V)...?〉の語順になる。疑問詞は普通、単数扱い。

Mike plays the hero.

誰が?

Who plays the hero?(↘)

S

V



A table, a chair, a bowl of fruit and a violin; what else does a man need to be happy?— Albert Einstein

Focus

004

選択疑問文

1. “**Do you** want tea(ㄥ) **or** coffee(ㄥ)?” “Coffee, please.” 014

「紅茶がいいですか、それともコーヒーがいいですか。」

「コーヒーをお願いします。」

2. “**Which do you** like better(ㄥ), cats(ㄥ) **or** dogs(ㄥ)?” 015

“I like dogs better.”

「イヌとネコ、どちらが好きですか。」「イヌのほうが好きです。」

... A or B?

1. 選択疑問文は、「Aですか、(それとも)Bですか」と、複数の選択肢の中から選択させる疑問文のこと。選択肢を or でつなげ、... **A or B?** の形になる。答えは Yes/No ではなく、選択肢の中から答える。イントネーションは ... A(ㄥ) or B(ㄥ)? となる。選択肢が3つある場合は最後だけ下げる。

▶ Would you like tea(ㄥ), coffee(ㄥ) **or** orange juice(ㄥ)?

(紅茶, コーヒー, オレンジジュースのどれかいかがですか。)

4つ以上の選択肢がある場合も、最後の語句だけイントネーションを下げる。

2. **Which ..., A or B?** の形の選択疑問文もある。

▶ **Which** color do you like better, blue **or** green?

(青か緑かどちらの色が好きですか。)

+ Plus α

... A(ㄥ) or B(ㄥ)? の場合

A or B が「AかBか」ではなく、「AやBなど」の例示の意味を表すときは、最後も上がり調子で発音し、その後も選択肢が続く感覚を残す。この場合は選択疑問文ではないので、選択肢以外のものを答えてもよい。

“Would you like **tea**(ㄥ) **or** **coffee**(ㄥ)?” (「紅茶, コーヒーなどはいかがですか。」)

“Thank you. I'd like **some water**, please.” (「ありがとうございます。水をください。」)

英作文のコツ

疑問詞が主語か目的語か?

問題 光と音のどちらが速く進みますか。

解答 Which travels faster, light or sound?

解説 疑問詞が主語の場合、Yes/No 疑問文(一般疑問文)にはならず、動詞が直接つながる。× Which does travel ...? にはならないことに注意しよう。
なお、この疑問文の答えは Light does. となる。



テーブル、いす、器いっぱいのフルーツ、そしてバイオリン。人が幸せになるのにほかに何が必要か?
— アルベルト・アインシュタイン

- | | | |
|---|--------------|-----|
| 1. Be careful. | 注意しなさい。 | 016 |
| 2. Come here. | ここに来なさい。 | 017 |
| 3. Don't be late. | 遅れてはいけません。 | 018 |
| 4. Don't touch the paintings. | 絵に触れてはいけません。 | 019 |
| 5. "Let's go shopping." "Yes, let's." / "No, let's not." | | 020 |
- 「買い物に行きましょう。」「そうしましょう。」「やめておきましょう。」

命令文

命令文は、相手に命令したり行動を求めたりする文。相手に直接言うため、普通は主語を付けない。感情を込めるときは感嘆符(!)を付ける。

肯定の命令文

1. 2. 肯定の命令文は「～しなさい」という意味を表す。**動詞の原形**で文を始める。
be 動詞の場合は Be で始める。please を付けると「～してください」と命令口調をやわらげる表現になる。文末に付けるときは please の前にコンマ(,)を置く。

Please come here. / Come here, please. (こちらに来てください。)



命令や依頼をする相手をはっきり示したいときやいらだちを表すときは、命令文に you が付くことがある。このときの you は強く発音される。

You come here! (君がこちらに来るんだ!)

否定の命令文

3. 4. 否定の命令文は「～してはいけません」という意味を表す。〈**Don't [Do not] + 動詞の原形...**〉の語順になる。be 動詞の場合も〈**Don't [Do not] be ...**〉となる。please を付けると「～しないでください」と命令口調をやわらげる表現になる。文末に付けるときは please の前にコンマ(,)を置く。

Please don't be late. / Don't be late, please. (遅れないでください。)



〈**Never + 動詞の原形...**〉にすると「決して～してはいけません」の意味になる。

Never forget his words. (彼の言葉を忘れてはいけません。)

Let's + 動詞の原形

5. 〈**Let's + 動詞の原形**〉は「(一緒に)～しましょう」という勧誘や提案を表す表現。Let's は Let us の短縮形。答えるときは Yes, let's. や No, let's not. と答えるが、OK. / Sure. (いいですよ。)や Sorry, I can't. (ごめんなさい、できません。)などと答えることも多い。



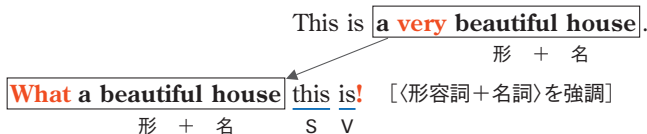
否定形「～しないようにしましょう」は〈**Let's not + 動詞の原形**〉で表す。

Let's not do that now. (今それをしないようにしましょう。)



What 型

2. 〈形容詞＋名詞〉を強調するときは、〈**What**＋(a/an)＋形容詞＋名詞(＋主語＋動詞)！〉の語順になる。



- ▶ **What an interesting story it is!** (それはなんておもしろい物語でしょう！)

注意

複数形の名詞や数えられない名詞の場合は、a/an は付かない。

What beautiful eyes he has! [複数形の名詞]

(彼の目はなんてきれいなのでしょうか！)

What beautiful weather we are having! [数えられない名詞]

(なんてよい天気なのでしょうか！)

Plus

How 型、What 型共に主語と動詞が省略された形もよく使われる。

How beautiful! / **What a beautiful house!**

また、形容詞や副詞が入らない形もある。

How he talks! (彼はなんてよくしゃべるんだ！)

What a shame [pity]! (なんて残念なことでしょう！)

What a relief! (ああ、ほっとした！)

What a surprise! (なんて驚きなんだろう！)

What a coincidence! (なんとという偶然だろう！)

Q

感嘆文と疑問文の語順がまぎらわしいのですが…。

質問箱

Q & A

A

次の2文を見てみましょう。

How tall he is! (彼はなんて背が高いのだろう！) [感嘆文]

How tall is he? (彼の身長はどのくらいですか。) [疑問文]

感嘆文は He is very tall. の very tall の部分が、how tall となって文頭に出て、残った he is 〈主語＋動詞〉がそのまま続きます。一方、疑問文はあくまでも疑問文なので、is he 〈動詞＋主語〉の語順になります。感嘆文の文末には感嘆符(!)が付き、疑問文の文末には疑問符(?)が付くという違いもあります。



What a strange world this would be if we all had the same sense of humor.

—Bernard Williams

Focus

007

否定疑問文

1. “**Can’t you swim?**” “Yes, I can.”/“No, I can’t.” 023
「泳げないのですか。」「いいえ、泳げます。」「はい、泳げません。」
2. “**Isn’t that puppy cute?**” “Yes, it is.” 024
「あの子イヌはかわいいよね。」「そうだね。」

否定疑問文

否定疑問文は、相手に「～ではないのですか」と尋ねる疑問文のこと。普通は〈be動詞/do/have/助動詞+not〉の短縮形が使われる。答えるときはYes/Noで答える。

1. 意外な気持ちを表したり、失望・いらだちなどを表す。

▶ **Didn’t you finish the work?** (仕事を終えなかったのですか。) [失望]

2. 確認するときにも用いられる。

注意

否定疑問文に対する答え(Yes/No)は、日本語の答え(はい/いいえ)と逆になることが多い。日本語では「はい=あなたの言った通りです」, 「いいえ=あなたの言ったことは間違いです」であるが、英語では、肯定形・否定形のどちらの疑問文でも、答えが肯定の内容なら **Yes**, 否定の内容なら **No** で答える。Yes/No に続く後ろの文の内容に合わせるとよい。

“**Don’t you like this soup?**” (「このスープが好きではないのですか。」)

“**Yes, I do** (= like it).” (「いいえ, 好きです。») × **No, I do.**

“**No, I don’t** (= don’t like it).” (「はい, 好きではありません。») × **Yes, I don’t.**

日本語は相手の発言への同意・不同意, 英語は発言内容についての肯定・否定を答える。



入試に Challenge

() に入る適切なものを選びなさい。

A: What did you do last night?

B: I watched the baseball game.

A: Didn’t you have any homework?

B: () I finished it early.

- ① No, although ② No, and ③ Yes, because ④ Yes, but

訳

A: 昨夜は何をしたの。 B: 野球の試合を見ました。

A: 宿題はなかったの。 B: (いいえ, ありました。でも)早く終わったんです。

Point

I finished it early と続き, 「宿題はあった」ので Yes になる。

解答 ④



もし我々がみんな同じユーモアのセンスを持っていたら、この世界はなんて奇妙な世界であらう。
—バーナード・ウィリアムズ

1. “You are a student, aren't you?” “Yes, I am.”/ “No, I'm not.”
「あなたは学生ですよ。」/「はい、そうです。」/「いいえ、違います。」 025
2. “You don't like cheese, do you?” “Yes, I do.”/ “No, I don't.”
「あなたはチーズが好きではないですよ。」 026
「いいえ、好きです。」/「はい、好きではありません。」
3. Open the door, will you? ドアを開けてくれますか。 027
4. Let's play cards, shall we? トランプをしませんか。 028

付加疑問

平叙文や命令文の後に付ける疑問形を**付加疑問**という。平叙文の付加疑問は、相手に「～ですよ」と確認したり、同意を求めたりする。相手に確認したいときは上がり調子(↑), 同意を求めるときは下がり調子(↓)のイントネーションになる。

▶ You love Tom, **don't you**?

(↑) 上昇調 (あなたはトムを愛しているのでしょうか。) [確認する]

(↓) 下降調 (あなたはトムを愛しているのですよね。) [同意を求める]

1. 肯定文には、否定形の付加疑問を付ける。否定形の付加疑問は短縮形が使われる。文の主語が名詞の場合でも、付加疑問の主語は代名詞になる。

▶ Emily likes music, **doesn't she**? (エミリーは音楽が好きですよ。)

I'm ... で始まる文の付加疑問は〈**..., aren't I?**〉の形になる。

▶ I'm your best friend, **aren't I**? (私、あなたの親友ですよ。)

[× *amn't*]

▶ You can speak Thai, **can't you**? (あなたはタイ語が話せるのですよね。)

2. 否定文には、肯定形の付加疑問を付け加える。

▶ You are not a student, **are you**? (あなたは学生じゃないでしょう。)

注意 ▶ 肯定形・否定形のどちらでも、肯定の内容なら **Yes**, 否定の内容なら **No** で答える。

命令文に続く付加疑問

3. 命令文の後に will you? を付けると「～してくれますか」という依頼の表現になる。would you? を使うと、より丁寧な表現になる(⇒p.122 CROSSOVER)。

▶ Don't open the door. (ドアを開けないで。)

→ Don't open the door, **will you**? (ドアを開けないでくれますか。)

Don't open the door, **would you**? (ドアを開けないでいただけますか。)

Plus

〈**命令文, won't you?**〉は「～しませんか」という勧誘を表すことが多い。

Come with me, **won't you**? (一緒に行きませんか。)



You know how to whistle, don't you, Steve? You just put your lips together and blow.—To Have and Have Not

Let's ... に続く付加疑問

4. 〈Let's + 動詞の原形, shall we?〉で「～しませんか」という丁寧な勧誘や提案の表現になる。答え方は〈Let's + 動詞の原形〉と同じ(⇒Focus 005)。



009

しょうじ

修辞疑問文

Who can say what will happen in the future?

029

将来何が起こるかなんて誰が予測できますか。

(→ 将来何が起こるかなんて誰も予測できない。)

修辞疑問文

修辞疑問文は、相手に質問をするのではなく、自分が言いたいことを強調するために、反語的(～だろうか、いや～ない)に表現する疑問文のこと。疑問文の形をしているが、相手に返答を求めているわけではない。肯定形の修辞疑問文は**否定の意味**を、否定形の修辞疑問文は**肯定の意味**を表す。

▶ **Who knows?** (= Nobody knows.)

(誰が知っているものか。→ 誰も知らない。)

▶ **Who doesn't know?** (= Everybody knows.)

(誰が知らないものか。→ 誰もが知っている。)

① 注意

普通の疑問文か修辞疑問文かは文脈によって決まる。

A funny thing happened to him. **Who knows** what happened?

(おもしろいことが彼に起こりました。何が起こったか知っている人はいますか。)

[普通の疑問文]

History may lie. **Who knows** what happened?

(歴史はうそをつくかもしれない。何が起こったかなんて誰も知らない。)

[修辞疑問文]

+ Plus

What is the point [use] of doing? 「～して何になるのか → 何にもならない」

What's the point [use] of worrying about it?

(そのことを心配しても何にもならない。)



口笛の吹き方は知ってるでしょ、スティーブ。唇を合わせて息を吹くだけよ。『脱出』